

第4条 競技者の用具

- ・安全: 競技者は危険な用具やその他のものを用いる、または身に着けてはならない。
- ・基本的な用具: 袖のあるシャツ、ショーツ、ソックス、すね当て(適切な大きさと材質、ソックスで覆われなければならない)、靴。
- ・ビブスは、交代要員と交代して退く競技者を区別するため、シャツの上に着用しなければならない。
- ・色: 両チームはお互いに、また審判と区別できる色の服装を着用しなければならない。それぞれのゴールキーパーは競技者、審判員と区別できる色の服装を着用しなければならない。
- ・チームキャプテンは、関連する競技会主催者によって用意もしくは認められたアームバンド、または単色のアームバンドを着用しなければならない。

第5条 主審・第2審判

- ・各試合は、その試合に関してフットサル競技規則を施行する一切の権限を持つ2人の審判(主審と第2審判)によってコントロールされる。
- ・主審と第2審判の判定に不一致があった場合、常に主審の判定が優先される。
- ・主審はタイムキーパーおよび第3審判がいない場合、これらの役割を果たす。

第6条 その他の審判員

- ・副審(第3審判、第4審判およびタイムキーパー)は、交代ゾーンのあるハーフウェーラインのところに位置する。
- ・第3審判は、主審・第2審判およびタイムキーパーを援助する。試合の記録を取る。各ピリオドが始まる前にタイムアウト要求用紙を各チーム役員に手渡し、各ピリオドでタイムアウトの要求がなかった場合は回収する。退場を命じられた競技者に代わる交代要員がピッチに入ることができる時間を示す用紙を、それぞれのチーム役員に手渡す。
- ・第4審判は、第3審判とともにチーム役員や交代要員をコントロールする。記録をとる、判定について援助する。
- ・タイムキーパーは試合時間を計測し、第1ピリオドの終了および試合の終了、チームから要求されたタイムアウトについて第3審判から知らされた後、主審・第2審判の笛と異なる笛や音で合図する。

第7条 試合時間

試合はプレーイングタイムで20分間の2つのピリオドで行われ、ハーフタイムのインターバルは15分を超えない範囲。

【プレーのピリオドの終了】

- ・タイムキーパーは、20分間のピリオド(延長戦含む)の終了をそれぞれの音により合図する。主審・第2審判が終了の合図の笛を吹かなかった場合であっても、音による合図があったとき、ピリオドは終了する。合図がない場合、指定された時間が経過したことを確認し、笛で終了する。
- ・ピリオドの終了間隙で6つ目以降の累積ファウルに与えられる直接フリーキック(DFKSAF)またはペナルティーキックが与えられた場合、キックが完了したときにピリオドは終了する。

【タイムアウト】

- ・チームは、各ピリオドそれぞれ1回、1分間のタイムアウトをとることができる。延長戦でのタイムアウトは認められない。
- ・チーム役員は第3審判、または第3審判が不在の場合はタイムキーパーに対してタイムアウト要求用紙を用いて要求する。タイムキーパーはボールがアウトオブプレーで、タイムアウトを要求しているチームがプレーの再開を行う、またはドロップボールを受けるとき、主審・第2審判が用いるものと異なる笛や音で合図し、タイムアウトを与える。
- ・タイムアウト中、交代要員およびチーム役員は、ピッチ外にいないなければならない。

第8条 プレーの開始および再開

【キックオフ】

- ・主審がコインをトスし、トスに勝ったチームが第1ピリオドまたは第2ピリオド、また延長戦が行われるとき、その第1または第2ピリオドのどちらでキックオフを行うかを決める。第1ピリオドにキックオフを行わなかったチームが第2ピリオドにキックオフを行う。
- ・競技会規定に定められていない限り、ホームチームが第1ピリオドにどちらのゴールを攻めるかを選択する。

【ドロップボール】

- ・主審・第2審判がプレーを停止し、フリーキック、ペナルティーキック、キックイン、ゴールクリアランス、コーナーキックの再開方法が当てはまらない場合、ドロップボールで再開する。ボールがインプレーでないときに反則が起きた場合、プレーの再開方法は変更しない。
- ・(両チームの)他のすべての競技者は、ボールがインプレーになるまで少なくとも2mボールから離れていなければならない。
- ・ボールは、ピッチ面に触れた時にインプレーとなり、(いずれのチームの)どの競技者であってもボールをプレーできる。

第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

- ・ピッチ面上または空中で、ボールがエンドラインまたはタッチラインを完全に越えた、主審・第2審判がプレーを停止した、ボールが天井に触れた場合はアウトオブプレーとなり、それ以外はインプレーである。
- ・ボールが審判員に触れピッチ内に残った場合、チームが大きなチャンスとなる、ボールが直接ゴールに入る、またはボールを保持するチームが替わった場合のみ、ドロップボールで再開する。

第10条 試合結果の決定

- ・ゴールポストの間とクロスバーの下でボールの全体がゴールラインを越えた時、ボールを入れたチームに反則なければ、1得点。
 - ・偶発的、意図的に関わらずゴールが守備側競技者によって動かされ、ゴールが通常的位置にあった時のゴールポスト間をボールが通過してゴールに入ると得点とする。攻撃側競技者がゴールを動かした場合、得点は認められない。
 - ・ゴールキーパーが相手ゴールにボールを直接手で投げ入れた場合、ゴールクリアランスが与えられる。
- 【PK戦(ペナルティーシュートアウト)】※両チーム5本ずつのキックを行う。
- ・試合中に退場を命じられた競技者のキックへの参加は認められないが、試合中またはどちらのチームが最初にキックをするかどうかを決めるコイントスの前までに競技者、交代要員またはチーム役員に示された注意や警告は繰り越されない。

第11条 オフサイド フットサルにはオフサイドはない。

第12条 ファウルと不正行為

【直接フリーキック】※競技者が相手競技者に対して、不用意に、無謀に、または過剰な力で行った場合。

- チャージする。●飛びかかる。●ける、またはけろうとする。●押す。●打つ、または打とうとする(頭突きを含む)。●タックルする、またはチャレンジする。●つまずかせる、またはつまずかせようとする。

【直接フリーキック】

- 意図的に、または手や腕で競技者の体を不自然に大きくすることを含め、ハンドの反則を行う。●相手競技者を押さえる。●身体的接触によって相手競技者を遅らせる。●チームリストに記載されている者もしくは審判員をかむ、またこれらに向かってつばを吐く。●ボール、相手競技者もしくは審判員に向かって物を投げるもしくはけりつける、または持ったものでボールに触れる、またはボールがゴールに触れるようにゴールを移動させる。

※直接フリーキックで罰せられるファウルは、ペナルティーキックが与えられた場合を除き、累積ファウルとなる。

【間接フリーキックで罰せられるファウル】

- 危険な方法でプレーする。●身体的接触を伴わずに、相手競技者の進行を遅らせる。●異議を示す、攻撃的、侮辱的、もしくは下品な発言や行動をとる、または言葉による反則を行う。●ゴールキーパーがボールを手で投げるもしくは手から放すのを妨げる、または、ゴールキーパーがボールを投げるもしくは放す過程でボールをける、もしくはけろうとする。

- 相手チームのゴールに次のように得点する。

・腕で体を大きくしていない場合で偶発的に自分の手や腕から直接。

・手や腕で体を大きくしていない場合で偶発的にボールが自分の手や腕に触れた後。ただし、ボールが触れた後、他の競技者によって意図的にプレーされていない場合。

【ゴールキーパーが次の反則を行うと与えられる間接フリーキック】

- 自分自身のハーフ内で、手や腕または足を用いて、4秒を超えてボールをコントロールする。●ピッチのどこにおいてもコントロールして保持したボールをプレーしたのちに、相手競技者がプレーする、または触れることなく味方競技者が意図的にゴールキーパーに向かってプレーしたボールを自分自身のハーフ内で再び触れる。●味方競技者によって意図的にゴールキーパーにキックされたボールを、自分自身のペナルティーエリア内で手や腕で触れる。(キックインからを含めて)

【懲戒処置】

競技者、交代要員またはチーム役員のみレッドカードまたはイエローカードを示すことができる。

テクニカルエリアに入ることのできる交代要員、退場になった競技者またはチーム役員による反則があり、その反則を行った者を特定できない場合、テクニカルエリア内にいる上位のコーチが罰則を受ける。

【警告となる反則】

- プレーの再開を遅らせる。●言葉または行動により異議を示す。●主審・第2審判のいずれかの承認を得ずピッチに入る、もしくはピッチを離れる、または交代の進め方に反する。●ドロップボール、コーナーキック、フリーキック、またはキックインでプレーが再開される時に規定の距離を守らない。●繰り返し反則する。●反スポーツ的行為を行う。

【退場となる反則】

- 意図的なハンドの反則を行い相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止する、またはゴールを動かすもしくは転倒させボールがゴールラインを越えることを阻止する。●フリーキックで罰せられる反則を行い、全体的にその反則を行った競技者のゴールに向かって動いている相手競技者の得点または決定的な得点の機会を阻止する。●著しく不正なプレーを行う。●乱暴な行為を行う。●人をかむ、または人につばを吐く。●攻撃的な、侮辱的な、もしくは下品な発言をする、または行動をとる。●同じ試合の中で2つ目の警告を受ける。

【得点または決定的な得点の機会の阻止(DOGSO)】

・競技者が、意図的なハンドの反則により、相手チームの得点または決定的な得点の機会を阻止した場合、反則が起きた場所にかかわらず、その競技者は退場を命じられる

DOGSO の状況かどうかを決定するにあたり、次の状況を考慮に入れなければならない。

- 反則とゴールとの距離。●全体的なプレーの方向。●ボールをキープできる、またはコントロールできる可能性。●ゴールキーパーを含むアクティブな守備側競技者の位置と数。●ゴールが「守られている」かどうか。●アクティブな攻撃側競技者の位置と数。

競技者が自分自身のペナルティーエリア内で相手競技者に対して反則を行い、相手競技者の決定的な得点の機会を阻止し、主審・第2審判がペナルティーキックを与えた場合、その反則がボールをプレーしようと試みて、またはボールに向かうことで(相手競技者に)チャレンジして行われたものならば、反則を行った競技者は警告される。

第13条 フリーキック

- ・直接フリーキックが行われ、ボールが相手競技者のゴールに直接入った場合、得点となる。間接フリーキックが行われボールが相手ゴールに直接入った場合、ゴールクリアランスとなる。
 - ・フリーキックは4秒以内に行う。・相手競技者は少なくとも5mボールから離れなければならない。
 - ・ボールがけられて明らかに動いたときにインプレーとなる。
 - ・延長戦がプレーされる場合、第2ピリオドの累積ファウルは引き続き延長戦でカウントされる。
- 【各ピリオド6つ目以降の累積ファウルに与えられる直接フリーキック(DFKSAF)】
- ・キッカーと守備側ゴールキーパー以外の競技者はピッチの中、ボールから少なくとも5m離れる。ボールの後方、ペナルティーエリアの外にいないなければならない。守備側チームの競技者はDFKSAFの守備のために「壁」を作れない。
 - ・ボールがけられるまで、守備側ゴールキーパーはボールから少なくとも5m離れなければならない、キッカーを不正に惑わすような行動(キックを遅らせる、ゴールポスト、クロスバーまたはゴールネットに触れる等)をとってはならない。
 - ・DFKSAFを行う競技者は明らかに特定され、ボールは相手競技者のゴールに向かってけなければならない。
 - ・キッカーはボールが他の競技者に触れられるまで、再びボールをプレーすることはできない。
 - ・DFKSAFが、ペナルティーエリアの外で守備側チームのエンドラインとエンドラインに平行なエンドラインから10mの仮想のラインの間のエリアで行われた場合、キッカーはDFKSAFを10mマーク、またはファウルが行われた場所から行うかを選べる。

第14条 ペナルティーキック

- ・競技者が自分のペナルティーエリア内で直接フリーキックとなる反則を行ったとき、ペナルティーキックが与えられる。
- ・キッカーは明らかに特定され、ボールがけられるとき、守備側ゴールキーパーは、少なくとも片足の一部をゴールラインに触れさせているか、ゴールラインの上方、または後方に位置させていなければならない。
- ・ボールがけられるまで、守備側ゴールキーパーはキッカーに面して、ゴールライン上にいなければならない、キッカーを不正に惑わすような行動(キックを遅らせる、ゴールポスト、クロスバーまたはゴールネットに触れる等)をとってはならない。
- ・キッカー以外の競技者は、ピッチの中、ペナルティーエリアの外、ペナルティーマークの後方においてペナルティーマークから少なくとも5m離れる。

第15条 キックイン

- ・キックインはボールがインプレー中、ピッチ上もしくは空中でボールの全体がタッチラインを超えた、または天井に当たったとき、最後にボールに触れた競技者の相手競技者に与えられる。
- ・キックインから直接得点することはできない。
- ・ボールは、ピッチを出た、または天井に触れたところから最も近いタッチライン上の地点で静止している。
- ・キッカーのみピッチの外にいても良く、すべての相手競技者はキックインが行われる場所のタッチライン上の地点から少なくとも5m離れて立っていないなければならない。
- ・4秒以内にボールをけり入れられなければならない、ボールはけられて明らかに動いたときにインプレーとなる。4秒以内に行わなかった場合、キッカーの味方競技者がピッチの外にいた場合も含めて相手チームのキックインとなる。

第16条 ゴールクリアランス

- ・ゴールクリアランスは、ピッチ上または空中にかかわらず、最後に攻撃側競技者が触れたボールの全体がエンドラインを越え、得点とならなかったときに与えられる。
- ・ゴールクリアランスから直接得点することはできない。
- ・ペナルティーエリアの任意の地点から守備側チームのゴールキーパーによって投げられるまたはリリースされる。
- ・ボールは、投げられるまたはリリースされて明らかに動いたときにインプレーとなる。
- ・チームがボールをインプレーにする用意が出来てから、または主審・第2審判がインプレーにする用意ができたことを合図してから、4秒以内にボールをインプレーにしなければならない。4秒以内に行わなかった場合、反則の起きた地点に最も近いペナルティーエリアのライン上から相手チームの間接フリーキックで再開する。
- ・相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、ペナルティーエリアの外にいないなければならない。

第17条 コーナーキック

- ・コーナーキックは、ピッチ上または空中にかかわらず、最後に守備側競技者が触れたボールの全体がエンドラインを越え、得点とならなかったときに与えられる。
- ・相手チームのゴールに限り、コーナーキックから直接得点することができる。
- ・チームがボールをける準備が出来てから、またはチームが準備できたと主審・第2審判が合図してから、4秒以内にボールをインプレーにしなければならない。4秒以内に行われなかった場合相手チームのゴールクリアランスとなる。
- ・相手競技者は、ボールがインプレーになるまで、コーナーアークから少なくとも5m離れなければならない。